

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100062-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成27年2月19日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

「家庭的で尊厳ある生活環境の中で、心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者と家族の幸せを追求する」この運営理念を、皆で共有し、実践することで、ご利用者様、ご家族様と信頼関係を構築し、今後も更に深め合い、ご利用者、ご家族の幸せにつなげていくことを追求していきます。また、地域との信頼関係も年々深まり、地域の中で生活していることに感謝し、今後共地域に愛される事業所づくりに取り組んで行きます。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

「心身の力を活かし」を理念のなかで謳っている。そして、本人のできる事、できる可能性に着目して、余計な手助けはせず、時間がかかっても本人にしてもらう事で、生活の幅を広げている。ホームに入ると時間に追われない、時間に縛られない、ゆったりとした時間の流れの空間で、利用者が過ごしているのを見ることが出来る。そこには、「まずは利用者との時間を大事に」とする事業所と職員の思いを感じることもできる。この事は、職員同士の会話でも同じであり、事業所全体の雰囲気を醸し出すことにも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(ひまわり) ※1ユニットの場合は2ページめは必要ありません。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	☐	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)	☐	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。							
ユニット名(さくら)							
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	☐	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	☐	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の会議による理念の唱和により、事業所の目的(ご利用者、ご家族の幸せ)を皆で確認し合い、ご利用者一人ひとりの幸せ、グループホームの意義等を踏まえ、日常生活、ケアの実践につなげています。	「家庭的で尊厳のある生活環境の中で、心身の力を活かし、安らぎと喜びの場」を理念として、全職員の理解を深めるとともに、各利用者のサービスの提供にどのように実践するのかが話し合われている。 利用者は持てる能力を発揮しながら、自宅にいる時と同じように生活を営んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	顔なじみの関係ができており、日常の挨拶や地域の行事、地域クラブ参加、事業所行事にも参加していただき、交流が深まっています。	地域へ出かけていく機会と、事業所へ来ていただく機会を増やし、お互いにウェルカムの姿勢で交流を図っている。そして、地域の理解が深まり、利用者は地域の一員として暮らししており、地域との触れ合いは生活の張りにもなっている。 さらに、地域との関係作りは、毎年の重点目標として取り組んでおり、地域との絆が徐々に太くなっているという。	これからも、地域の方々の協力を得ながら支え支えられる、双方向の関係となる事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター主催による地域へのグループホームの説明会等、地域の人々に認知症、グループホームの理解等発信する機会もあり、また運営推進会議、地域行事への参加等、様々な形で伝えていくよう心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議等の機会を活用し、防災に関する地域協力が進み、地域と一体となった取り組みを続けています。今後も互助の関係づくり、仕組み作りに取り組んでいきます。	毎回の会議では多くの意見・要望が出されていて、相談役としての存在は大である。 そして会議の一環として、防災訓練や事業所行事に参加してもらい、取り組みや利用者の様子、職員の対応等を実際に見てもらう事で、感想・意見を得て今後に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	疑問点、問題点などがあれば、市の担当者と連絡を取り合い、指導を仰ぎ、また地域包括との連携により認知症、独居高齢者等の受け入れなど協力関係を築いています。	市の担当者とは日頃より、情報交換をはじめ、事業所や利用者の課題解決に向けての協働関係の構築に努めている。 また、行政が地域に向けて「グループホームとは」の説明会を開催する際など、地域の認知症への理解を深める協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ご利用者の尊厳を大切に、勉強会等でもテーマにし、施錠を含め「身体拘束」に対し、正しく理解し、取り組んでいます。	サービス向上運営委員会で、身体拘束・虐待についての徹底理解を図り、そのリーダーが主体となり各ユニットで話し合いをしている。利用者は尊厳の確保の下に、言葉や行動の抑制のない、一人ひとりの思い通りの生活を行っている。今後も学習の機会を更に増やしていきたいという。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等含め、法的理解を学び、スタッフ間でもお互いの行動、言動に気をつけ目を向け合い、ご利用者様がどのような状態、変化があっても虐待の防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、介護スタッフは研修を受け、理解しているスタッフもあり、入居しているご利用者様にも権利擁護支援を受けている方もおり、実情と制度の理解につながっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用料金等の説明を行い、御家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいています。また、法改正による料金改定時等、その都度ご家族様へ説明文を添付し、理解、納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこに、誰に伝えることができるかを明確にし、また太陽通信、意見投書箱等により伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。	運営推進会議には、家族が順番で出席してもらうようにしている。また、事業所行事に家族参加を求め、意見等を集める機会ともしている。そして、出された意見等については話し合いを経て改善に活かしている。意見等の声は少ないが、少ないことが利用者・家族の満足の証とは考えておらず、毎号の広報誌では、家族の要望・意見を求める欄を設けるなど、前向きな姿勢が視られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、勉強会等によりスタッフとの意見交換を行なう機会を作り、また普段からも随時、必要な際には時間を作り、スタッフの言葉に耳を傾け、必要なことを反映させています。	管理者は職員の意見・提案等に対して、常に聞く姿勢を保ち言いやすい環境の保持に努めている。結果として、職員は必要と感じた手順書等を自分たちの言葉で分かり易く作るなど、気付きを意識した取り組みが行われているので、モチベーションの維持・向上にも繋がっていると感心する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は常日頃のコミュニケーションとともに、定期的に全スタッフとの面談を行い、職場環境・条件の整備について会社のビジョンを伝え、各自とともに目標を掲げ意欲向上につなげております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理職、リーダーと個々のレベルに合わせた研修や将来ビジョンについて話し合い、社会人として、介護職として資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会に外部講師の講義を取り入れたり、病院との連携、グループホーム同士の連携の中で、勉強会や、交流会を開き、他事業所との意見交換や知識交換を行ない、資質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、ご利用者とのコミュニケーションをとり、共に生活をしていく中で不安や心配に耳を傾け、ご利用者の安心と信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時、面談時等でご家族の不安等の気持ちを深く理解するよう努め、不安や心配に感じていることを解消する方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、共に考え、受け止め、改善できるよう前向きな話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談、申し込み、面談等を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、そのご利用者様に何が必要なのか、どんな心配事や悩みを持っているのかなどを確認し、その時々状況に応じて対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意思や尊厳を大切に、ご利用者様の性格、病状、個性を理解し、職員の一方的な思いで行なう指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時、スタッフは御利用者様の状況を話すなどご家族様とのコミュニケーションを大切にし、また管理者も病院との連携による身体状況等情報を共有し、ご家族、ご本人の考え、気持ちを大切に信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様によって差はあるが、ホームに来てくださる友人、知人の方々は年々多くなり、引き続き、今後も関係が途切れない支援に取り組めます。	利用者の知り合いが事業所への面会の際は、職員が歓迎の心で迎え入れるので、居心地が良いのであろう、長い関係が続いている。 利用者が地域へ出かける機会を推進しており、新たな友人との行き会いや懐かしい場所へ出かける事が楽しみの一つとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の相性、性格を把握し、普段の生活の中で、役割、レク等を行ないながら孤立しない関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られたご利用者様、ご家族様とは面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のADL状況を理解し、安心できる空間、時間を大切にしています。また日常の中で、行事等含め、思いや希望を聞き、日々の役割、散歩、出かける場所等様々な形でその人の思いを叶えることのできるよう努めています。	じっくり利用者に耳を傾けることで、本人の思いや願い、ここでの暮らし方の意向を聞き、自己決定に基づいたケアプランの作成に努めている。そこには、「まずは利用者に関わる時間を大切に」という、事業所の方針を視ることができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者、ご家族、関係機関(地域包括や病院、居宅ケアマネや以前使っているサービス事業所等)からの情報や話し合いを行い、それらの情報をスタッフ全員で情報共有し、それまでの暮らしや思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の送り事項や会議等により現状の確認、連携病院による心身状況やADL等の情報の共有を行い、有する力を発揮できるように生活、過ごし方に配慮し、その人らしい生活の支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族や病院等必要な情報や意見を基にケアプランを作成し、毎月各ご利用者様について、スタッフ皆でモニタリングを行い現状に即したケアプランの作成、実践を行なっています。	本人の望む生活とエンパワメント能力を引き出し、できる事はご自身で、また、日中活動性や身体機能維持を推進するケアプランの特色が視られる。毎月のモニタリングではケアプランの振り返りを行い、計画への見直しへと繋げている。 毎年、健康状態・ADL・IADL・認知度等の変化を把握して、アセスメントを最新化してプランにも活かしている。	個々のケース記録においては、本人の一日の様子や過ごし方がわかる内容となっているものの、ケアプランに基づいての実施状況や効果など、エビデンスの蓄積が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等に様々なご利用者状況を記入し、情報の記録化を進め、スタッフで情報共有を行い、モニタリングを行い介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族様の状況により、ホームで支援できることはできるだけやらせていただき、また独居高齢者、生活保護者等に対する柔軟な対応を行なうことも社会貢献の一環として捉えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶のみサロン等に呼んでいただき、また地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の温かさを感じることもできる生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族の納得のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診等協力体制を築き、また専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制に整えています。	協力医療機関との協力が得られやすく、医師の往診と看護師の訪問がそれぞれ月二回、半年に一回の血液検査もあり、利用者・家族だけでなく、職員も安心して生活及び介護が可能となっている。また、日常的に行う朝夕2回のバイタルチェックで異常の早期発見に努め、医療機関へと繋げる体制もできている。専門士によるリハビリを日々の生活に取り入れている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間、365日の体制でご利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制を築き、ご利用者の体調変化や不安に対しては相談できます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様の状況変化等によりご家族との話し合いの場を設け、ホーム管理者又は連携医師と話し合いをし、今後の方向性を相談するなどの対応をしています。	玄関に入ると「太陽ターミナル指針」が掲示されている。そして、「ターミナルケアについての生前の意見確認書」「終末期・緊急時対応について」を活用して、早い段階で事業所の方針を説明し、利用者・家族の想いを記入してもらっている。 そこには、その人の生活の視点に立ったその人らしい自然史に近い看取りの方針が、一般の方にもわかる文面・内容として、全職員が真摯に人間の最期に立ち会う心が伝わる内容と感心する。 実際、家族の希望で、利用者・家族・職員・事業所全体でのターミナルケアを実施しており、この事により終末期等の事業所の方針の共有化が各職員に広まり・深まる功績ともなったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法、避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜の避難訓練等を含めて研修を行い、全スタッフが迅速に災害に対応できるようにしています。また地震に対する災害時対応のマニュアルを作成し、すぐに避難訓練に取り組みました。運営推進会議を基に、地域の消防団との連携を強化しています。	災害に関するマニュアルが、火災・地震等について分かり易く作成されている。昼夜の避難訓練では家族・地域住民・運営推進会議委員等にも見学してもらい、職員の行動について指摘してもらうなど、安全確保への意識・スキルの向上に活かしている。 また、管理者は避難訓練がマンネリ化しないように創意工夫した訓練を計画するなどしており、災害に対しての意識の高さを感じることができる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳を大切にプライバシー保護に努めております。また、ご利用者様に対する言葉かけは、日頃から、温かみのある丁寧な言葉をスタッフ一同意識しております。	定期的な研修を重ねており、職員の意識の統一に努めている。 利用者が人格やプライバシーの保護された生活支援のなかで、ゆったりとした生活が成されている事はその証と思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常のなかで、希望や気持ちを聞き、様々な喜び、役割、思いを理解し、自己決定につなげることができるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所、スタッフ間で優先すべきは「ご利用者」の気持ちや生活であることを理解し、業務優先ではなく、その人らしさ、一人ひとりのペースを大切に支援できるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の洗顔、髭剃り、整髪に気を配り、外出時等も服装、お化粧など、ご利用者様が着ていきたい服等を決めるなどその人らしさを大切に取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事はバランスを考え、盛り付け等により「楽しみ」の一つになるよう工夫し、また食事作り、盛り付け、片付け等ご利用者様に積極的に関わってもらっています。	時間に追われない、縛られない利用者のペースに沿った、ゆったりとした食事の準備が進んでいき、その日の利用者の希望で各ユニットのメニューを考えている。利用者個々のエプロンもあり、エプロンをつける事で主婦に変身する姿を見ることもできる。食事時間は笑いや会話のある一時であり、協力医療機関の栄養士からのアドバイスも得た栄養面の配慮もあり、健康的な食事の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はチェック表により把握できるようにし、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量、栄養補助食などバランスや健康を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアは実施し、介助が必要な方には介助を行い、自立されている方にも見守り、確認を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表等参考にし、把握しトイレでの排泄、自立した排泄支援に努めています。	一目でわかる健康チェック表から、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄・自立した排泄支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりにキメ細かな支援が実施されているので、清潔な状態での生活が維持されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事、水分での予防、腹部マッサージ等工夫を行い、個別により医師との相談により、予防、対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前、午後などの時間帯は決めず、「お昼寝をしたいから午前に」、「汗をかいたから」等ご利用者の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。	本人の意向に沿った曜日・時間での入浴支援が実施されている。そして、その日の体調に合わせて入浴方法を変更したりと、記録も整備されている。浴室は整理整頓され、安全に安心して入浴を楽しめる環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の状況、その日の体調や希望によりご利用者に必要な休息をとっていただき、不安がある時は、ゆっくりと話を聞いたり、お茶をして安心できる環境を整え、ゆっくりと安眠できるよう取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、スタッフ一人ひとりが責任を持ちながらも、ダブルチェックできる体制を作り、服薬支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や毎日の日課の中での役割、散歩などメリハリのある生活を行ないながらゆっくり話を聞くなど、小さな喜びを大切に取組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、ドライブ、畑、買物、日向ぼっこなど日々の生活の中で外に出る取り組みを行っています。	日々の生活の中で、ユニット全員や個人での散歩・買い物・ドライブ等、積極的に行われている。地域行事には事業所全体で参加しており、その際は利用者用に席が確保されるなど、利用者が地域に溶け込むとともに、事業所への理解も広まっているものと思われる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要になれば所持してもらえ環境であり、数名のご利用者は日頃から所持しているが、「使う」ことを今後支援できるよう体制構築に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望により、電話をかけ、ご家族、友人等の声を聞き、安心できるよう配慮し、葉書などはご本人様と一緒に読み上げご家族、ご友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部、個室等の温度調整を適正にコントロールし、季節にあった飾りや花を皆様に楽しんでいただけるよう工夫しています。	利用者は居室を出ると、馴染みの利用者・職員の居る居間(共有空間)が待っている。そこは常に人の気配があり、動きがあり、声がある。 また、個々の利用者の季節感を感じることが出来る作品なども掲示して、居心地の良い空間づくりに努めている。 そして、居心地が良いのであろう、利用者は自分の好きな時、気の向いた時に、居室から居間へと自由に出入りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では小上がり、ソファなどがあり、各々の居場所でくつろぐ場面が見られ、また玄関先にも椅子を設置し、外が気になる方、1人になりたい方等にも配慮し活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者、ご家族様との相談の中で、居室空間は各々の大切なもの、また日常生活品や写真などを飾り、ご利用者様が自分の部屋であると安心できるよう配慮しています。	趣味の絵画や折り紙等が好きな時にできる、一人ひとりの個性に合った居室となっている。各部屋には職員手作りの誕生日を祝う色紙が利用年数とともに増しており、その方のホームでの歴史を知るとともに、利用者と職員が家族としてここで暮らしていることが推測できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解し、ご利用者様の様子観察をしっかりと行なうことで安全と自立のバランスを保つよう努めています。		